

- $S^2 := \{u \in \mathbb{R}^3 \mid |u| = 1\}$ の向きを $n: S^2 \rightarrow \mathbb{R}^3, n(u) = u$ で与える (例 8.10 参照). $D^\circ := \{(s, t) \in \mathbb{R}^2 \mid s^2 + t^2 < 1\}$ とおき, 各 $u \in V_z^+ := \{(x, y, z) \in S^2 \mid z > 0\}$ のまわりの局所座標 $\varphi: D^\circ \rightarrow V_z^+, \varphi(s, t) := (s, t, \sqrt{1 - s^2 - t^2})$ を考える (例 7.3 参照).

 - $\partial_s \varphi := \frac{\partial \varphi}{\partial s}$ などと略記する. $\hat{n} := \partial_s \varphi \times \partial_t \varphi$ を計算し, φ は n に適合することを示せ. つまり, 任意の $a \in D^\circ$ に対し $u = \varphi(a)$ とおくと, $\hat{n}(a) = kn(u)$ となる $k > 0$ が存在することを示せ.
 - \mathbb{R}^3 上のベクトル場 $V(x, y, z) := (x, y, z)$ に対し, $V(\varphi(s, t))$ を求めよ. また $V(\varphi(s, t)) \cdot \hat{n}(s, t)$ を求めよ.
 - $\varphi(D^\circ) = V_z^+$ であることを示せ.
 - $\int_{V_z^+} V \cdot n dS := \int_{D^\circ} V(\varphi(s, t)) \cdot \hat{n}(s, t) ds dt$ を計算せよ.
 - $\varphi': D^\circ \rightarrow V_z^+$ を, $\varphi'(s, t) := (t, s, \sqrt{1 - s^2 - t^2})$ で定義する. φ' は n に適合しないことを示せ.
 - $\hat{n}' := \partial_s \varphi' \times \partial_t \varphi'$ とおく. $\int_{D^\circ} V(\varphi'(s, t)) \cdot \hat{n}'(s, t) ds dt$ を計算し (4) と比較せよ.
 - 各 $u \in V_x^+ := \{(x, y, z) \in S^2 \mid x > 0\}$ のまわりの局所座標 $\bar{\varphi}: D^\circ \rightarrow V_x^+, \bar{\varphi}(s, t) := (\sqrt{1 - s^2 - t^2}, s, t)$ を考える. $W := \varphi^{-1}(V_z^+ \cap V_x^+), W' := \bar{\varphi}^{-1}(V_z^+ \cap V_x^+)$ とおくと, $\psi := \bar{\varphi}^{-1} \circ \varphi: W \rightarrow W'$ を計算し, ψ が C^∞ 級全単射で, ψ^{-1} も C^∞ 級であることを示せ.
- S^2 の向き $n: S^2 \rightarrow \mathbb{R}^3$ は問題 1 と同じとする. $V_+ := \{(x, y, z) \in S^2 \mid z > -1\}$ とおき, 各 $u \in V_+$ のまわりの局所座標 $\varphi_+: \mathbb{R}^2 \rightarrow V_+$ として $\varphi_+(s, t) := \frac{(2s, 2t, 1 - s^2 - t^2)}{1 + s^2 + t^2}$ を考える (演習 8, 問題 1 の立体射影).

 - φ_+ は n に適合することを示せ.
 - ベクトル場 $V(x, y, z) := (x, y, z)$ に対し, $\int_{V_+} V \cdot n dS$ を計算せよ.
 - $\varphi_+(D^\circ) = V_z^+$ (問題 1 のもの) を示せ. $\varphi_+: D^\circ \rightarrow V_z^+$ を使って $\int_{V_z^+} V \cdot n dS$ を計算し, 1. (4) と比較せよ.
 - 各 $u \in V_- := \{(x, y, z) \in S^2 \mid z < 1\}$ のまわりの局所座標 $\varphi_-: \mathbb{R}^2 \rightarrow V_-$ として $\varphi_-(s, t) := \frac{(2s, 2t, s^2 + t^2 - 1)}{1 + s^2 + t^2}$ を考える (演習 8, 問題 1 の立体射影). $W_\pm := \varphi_\pm^{-1}(V_+ \cap V_-)$ とおくと, $\psi := \varphi_-^{-1} \circ \varphi_+: W_+ \rightarrow W_-$ を計算し, ψ が C^∞ 級全単射で, ψ^{-1} も C^∞ 級であることを示せ.
- 一般に, $u, v \in \mathbb{R}^3$ と $a, b, c, d \in \mathbb{R}$ に対し, $(au + bv) \times (cu + dv) = (ad - bc)u \times v$ であることを示せ. これを使って補題 9.6 の証明を完成させよ.
- C^∞ 級関数 $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$ をスカラー場とも呼ぶ. 向きづけられた曲面 S に対し, $u \in S$ のまわりの n に適合する局所座標 $\varphi: U \rightarrow S$ を取って, スカラー場 f の $A := \varphi(U)$ に沿った面積分を次のように定義する:

$$\int_A f dS := \int_U f(\varphi(s, t)) |\hat{n}(s, t)| ds dt, \quad \text{ただし } \hat{n} := \partial_s \varphi \times \partial_t \varphi.$$

- $\int_A f dS$ は n に適合する局所座標 φ の取り方によらないことを示せ.
 - 定数関数 1 に対し, $\int_A 1 dS$ を A の面積と呼ぶ. 問題 2 の $\psi: \mathbb{R}^2 \rightarrow V_+$ に対し, $\int_{V_+} 1 dS$ を計算せよ.
- トーラス T の局所座標として, 演習 10, 問題 3 の $\varphi: (0, 2\pi) \times (0, 2\pi) \rightarrow T$ を取る.

 - S の向き $n: T \rightarrow \mathbb{R}^3$ を, n が T で囲まれる有界領域から非有界領域に向かうよう定義する. φ は n に適合するか? (ヒント: 例えば $\varphi(\pi, \pi)$ における n の向きを見れば十分)
 - $V(x, y, z) := (y, -x, z)$ に対し, $\int_{\varphi(U)} V \cdot n dS$ を計算せよ.
 - $\varphi(U)$ の面積 (問題 4 参照) を計算せよ.

(提出の必要はありません)

補足: 局所座標が曲面の向きに適合するか否かの判定について.

(S, n) を向きづけられた曲面とし, $\varphi: U \rightarrow S$ を $u \in S$ のまわりの局所座標とします. $\hat{n} := \partial_s \varphi \times \partial_t \varphi: U \rightarrow \mathbb{R}^3$ とお

くと、任意の $a \in U$ に対し

$$\hat{n}(a) = kn(\varphi(a)) \quad (\in T_{\varphi(a)}^{\perp} S) \quad (*)$$

となる $k \neq 0$ が存在します (実際には常に $|n| = 1$ であることから $k = \pm |\hat{n}(a)|$ で、これは a に依存して変化します)。 $k \neq 0$ となる理由は、局所座標の条件 (iii) により $\partial_s \varphi$ と $\partial_t \varphi$ が常に 1 次独立で、従って $\hat{n} \neq \mathbf{0}$ だからです。任意の $a \in U$ に対し $k > 0$ であるとき、 φ は n に適合する、といたしました。 \hat{n} を「 φ が決める $\varphi(U)$ 上の向き」と呼ぶことにすると、元々与えられた向き n と、 φ が決める $\varphi(U)$ 上の向き \hat{n} が同じ方向を向くとき、 φ は n に適合する、というわけです。

φ が n に適合するか否か調べるには、任意の $a \in U$ について、(*) をみたく k の符号を調べる必要があります。しかし実際には次のことが言えます：

補題. U が弧状連結であるとき、ある 1 つの $a \in U$ について (*) をみたく k が正なら、 φ は n に適合する。

証明. $a' \in U$ とします。 U が弧状連結なので、 U 内の連続な曲線 $l: [0, 1] \rightarrow U$ で、 $l(0) = a, l(1) = a'$ をみたくものが存在します。 $k = \pm |\hat{n}|$ も U 上の連続関数なので、 $k \circ l = \pm |\hat{n} \circ l|$ も連続です。 k がどの点でも 0 にならないことから、 $k \circ l$ の正負は $[0, 1]$ 全体で一定です (連続関数が符号を変える瞬間には必ず 0 を通る)。仮定から $t = 0$ においては $k(l(0)) = k(a) = +|\hat{n}(a)| = +|\hat{n}(l(0))| > 0$ でしたから、 $t = 1$ においても $k(l(1)) = +|\hat{n}(l(1))| > 0$ です。これは $k(a') = +|\hat{n}(a')| > 0$ を意味します。 □

$k(a)$ の符号を調べるとき、 a はどれでもよいわけですが、計算しやすいものを選ぶとよいと思います。例えば演習 11 の問題 1. (1) の場合、 $\hat{n}(\mathbf{0})$ と $n(\varphi(\mathbf{0}))$ を比べると簡単です。

幾何入門レポート問題 11 (2019 年 7 月 5 日)

担当：境 圭一

演習 11, 問題 1 の状況で, $\mathbf{W}(x, y, z) := (xz^2, yz^2, z^3)$ に対し, $\int_{V_z^+} \mathbf{W} \cdot \mathbf{n} dS$ を計算せよ.

(7/12 の 3 限開始時まで提出してください)

http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/19_geometry/19_geometry.html